# 第28会日本藻類学会大会開催記・参加記

## 本村泰三[1]・堀口健雄[2]：日本藻類学会第28回大会を終えて

2004年3月27日から29日の3日間，北海道大学学術交流会館において日本藻類学会第28回大会を開催させて頂きました。本大会では参加者208名，講演数は100題（口頭発表は70題，展示発表は30 題）に及び，当初，初春の北海道ということもあり天候不順を含めて，例年に比べての参加者数の伸び悩みを心配しておりましたが，予想を上回る結果となりました。学会最終日には財団法人札幌国際プラザとの共催のもと市民公開シンポジウム「北海道におけるコンブ研究の現状とその問題点」を開催しましたが，200名弱の参加があり，改めて市民の藻類への関心の高さを認識した次第であります。また，学会終了後には，北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所において，蛍光顕微鏡・電子顕微鏡の技法を中心とするワークショップを開催し，14名が参加しました。学会を通しまして多くの方々にご協力をお願いしました。まず，この場を借りまして感謝申しあげます。

今回の大会では，初めての試みとして電子メールによる学会要旨の受付を行いました。この導入を決めた際には大きな問題も起こらず円滑に要旨集作成が進むものを考えておりました。しかし実際には講演者によって文字数，文字幅，また書式スタイルが異なり，かなり苦労する結果となりました。何人かの方には文字数を減らして頂くなどのお手数をおかけしました。大変な点もありましたが，和文誌への入稿などを考えると今後もこの方式が望ましいと考えます。また，前回の三重大会では，液晶プロジェクターの大幅な導入により印象に残る解りやすい口頭発表が相次いだことから，本大会においても液晶プロジェクターの導入は準備の早い時期から決めておりました。しかしながら，三重大会のように専用LANで会場のコンピューターを結ぶのは断念し，手元のノートパソコンとリース会社からレンタルしたものを用いて，受付と会場に同機種のパソコンをそれぞれ用意することで対処することにしました。すなわち，1）受付で，最初のセッションの講演用ファイルをすべてハードディスクにコピーしてから会場にもっていき，順次映写をおこなう，2）そのセッションの間

は別のパソコンを受付に置いて次のセクションのファイルを受け付けるという方式です。このような方式で上手くいくものかどうかという点がスタッフ一同最も不安な点でありました。実際，動画においてこちらで用意しましたパソコンにソフトがインストールされていないケースがありご迷惑をおかけしましたが，それ以外は演者の皆さんのご協力により，すべてセッション開始前にファイルをハードディスクにコピーすることが出来，結果として概ね上手くいったものと考えております。

懇親会も盛況であったと思います。限られた予算内で全国から来られた参加者の皆様に何とか北海道の雰囲気を味わって頂こうと考えました。少し会場が狭かった様ですが，北海道の3月下旬ということもあり，吹雪となった場合，雪がまだ積もっている場合，本州からの参加者は冬靴の準備もされていないだろうなど考慮し，発表会場からは近い場所にしようと考えまして，大学生協食堂を使わせて頂くこととしました。「マグロの解体」といった派手なことはできませんでしたが，焼きタラバやミニ札幌ラーメンなどのメニューを生協食堂と頭を悩ませながら考えました。さらに北海道の地酒（解説つき）や室蘭特産のガゴメ汁など，食堂とは別に我々スタッフが用意したコーナーも好評だったようで，多少なりとも北海道らしさを味わっていただけたのではないかと考えております。

本大会は北海道大学札幌メインキャンパスで初めて行われた藻類学会でありました。準備・学会期間を通して，若い教官の方々，学生・大学院生・卒業生諸君には献身的に協力して頂きました。心から感謝したいと思います。また，遠方にもかかわらず多くの方々に参加して頂きましたこと，改めてお礼申し上げます。いろいろ不手際もあったと思いますが，皆様にとって印象深い大会となれば幸いです。

（[1]北海道大学北方生物圏フィールド科学センター，[2]北海道大学大学院理学研究科）